

温暖化の影響

最近は何かと地球温暖化の問題が話題になります。

米どころ新潟の水稲栽培では夏場の高温対策が課題となったり、北海道産のお米が美味しくてブランド米になったりしてしています。佐渡ではみかんの防除暦も作成されております。

さて、私の趣味の魚釣りでも海の温暖化を感じる事が多々あります。

西日本の魚であったサワラが東京湾や、新潟東港で普通に釣れる様になったり、北海道では水揚げされなかったブリがオホーツク海で釣りの対象魚になったりと、挙げればきりがありません…。

ものの本によると、この様な気候変動による海洋への影響は想像以上に大きく、生態系の変化により、魚種交代が生じるそうです。

魚種交代は、太平洋では過去100年で7回あり、東シナ海、日本海にも多大な影響を及ぼしたそうです。最近では、1998年から1999年に起こっており、10～20年の周期で起こることのこと。

この様な魚種交代が10～20年で生じるとするならば、日本近海でイワシ、アジ、サバ、サンマなど日常に食している魚もどこか違う海域に移動してしまい（今でも漁獲量の減少、輸入もあり）、ますます高級魚？になってしまうのでは？

はたまた、沖縄の海にいる様な熱帯魚の様なカラフルな魚（グルクンなど）が庶民の口に入る大衆魚として「築地」いや「豊洲市場」にたくさん並ぶ様になるかも知れない…？

年末年始のTV番組で楽しみにしている『大間のマグロ』の番組もマグロが捕れなくなって放送が無くなってしまうのは、ちょっと淋しい感じです。

この様な魚種交代が日本人が良いと思う方向に進むのか、悪い方向に進むのかは、エリアによって異なるだろうが、漁師さんや消費者にとって都合良く、私の様な趣味で魚を釣る者にも、そこそこ楽しめる海であることを願うのは、非常に自分勝手な考え方でしょうか…。

この、魚種交代の原因が殆ど人的由来で発生しているなら辛いことでありますけどね…。

(T.S.)

Chemigress to **100**

創業100周年へ。

化学の力で
ジャンプします。

日本曹達は、世界の“NISSE”をめざします。

私たちは、2020年の創業100周年へ前進しています。農業・医療・環境・情報などの事業分野を育成・展開し、環境保全や安全、快適な暮らしなど、化学の力で多様なテーマに取り組む、グローバルな企業グループをめざします。

社章に息づく情熱のように、真っ白な可能性のキャンバスに夢を描きながら、NISSEは世界へ、未来へと飛躍します。

Chemigress: 化学の力で (Chemical) 社会の発展 (Progress) に貢献する——
そんな意味を含めた、創業100周年をめざす私たちの言葉です。

日本曹達株式会社

〒100-8165 東京都千代田区大塚二丁目2番1号
TEL.03-3245-8054
<http://www.nippon-soda.co.jp/>